

令和6年度 第2回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議 議事要旨

日 時：令和6年7月23日（火）19:00～20:15

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：6名

浅野志麻（沖縄県立宮古病院）、有賀拓郎（琉球大学病院）、糸数公（沖縄県保健医療部）、佐村博範（浦添総合病院）、仲地厚（友愛医療センター）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター）

欠 席：8名

金城達也（琉球大学大学院）、金城徹（琉球大学病院）、玉城研太郎（那覇西クリニック）、豊見山良作（那覇市立病院）、仲宗根正（那覇市保健所）、宮城政剛（新川クリニック）、宮里浩（那覇市立病院）、山本孝夫（沖縄県立八重山病院）

陪 席：1名

西佐和子（琉球大学病院がんセンター）

【報告事項】**1. 令和6年度 第1回大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について**

増田委員より、資料1に基づき大腸がん死激減プロジェクト連絡会議議事要旨について説明があった。

2. 今年度の委員について

増田委員より、資料2に基づき、今年度の委員の報告があった。

3. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）の指標評価ツール（グラフ表示機能付き）の説明

増田委員より、大腸がんロジックモデルの指標評価ツールについて説明があった。指標評価ツールはまだ完成していませんが、ダウンロードをお願いした。このツールはロジックモデルと基本的に同じですが、レイアウトが異なり、議論を容易にするために変化を示すグラフが追加されている。元データから自動的に順位を取得できないため、これから事務局が手動で入力を行い、沖縄県の下に全国47都道府県の順位が表示される予定である。また、8月2日に行われる協議会で許可が得られれば、全国公開する予定であるとのことだった。

【協議事項】**1. 大腸がん治療方針に関するコンサルとシステムの構築について**

佐村委員より、資料4に基づき「大腸がん相談室」について、進捗報告があった。

- ・システムの問題点

書き込むスペースが3行と限られているため、プレゼンテーションや回答時に全体を見渡せない難しさがあり、大変苦労している。さらに、今回も宮古病院からの画像送信ができず、浦添総合病院に画像を送ってもらい、こちらで画像登録を行って共有している。この問題を改善するよう医師会に何度か訴えているが、対応が難しそうなので、当面は自分たちで対応を続けている状況である。

- ・相談員について

相談員は変わらず26名だが、アクティブメンバーが決まってきており、コメントを入れてくれて成り立っている状況である。全員からの回答は必要ないが、できれば全員に閲覧してもらいたい。回答が必要な場合は、こちらから連絡している状況である。

- ・相談症例について

専門医が少ない施設からの初回の症例検討などに対応したいが、現状ではそのような相談は来ておらず、専門施設からの困難な症例などの相談が主になっている。しかし、これは専門性を高めるための非常に良いディスカッションの場となっており、意味があると感じている。この状態を維持しつつ、専門医が少ない施設からのカンファレンス的な実践や検討を取り入れたいと考えている。

2. 検診について

- ・未把握率改善に成功した事例

糸数委員より、那覇市医師会の大腸がん検診プロセス指標改善の取り組みについて紹介があった。佐村委員より、那覇市の取り組みを続けていただきたいが、おそらく通年すると受診率が落ちてくる可能性がある。何度も検査を受けることで、昨年問題がなかった人が今年は検査を受けないというケースが出てくるため、それを理解した上で、次の年は必ず受けるよう促す形で、取り組みを継続してほしいと提案があった。

仲地委員より、全く精検をしておらず、完全に閉塞をしている症例が散見される。最初の一次検診も受けていない人が相当数いるという問題があり、さらに精密検査を受けても、二次精密検査に行かない患者もいるため、その状況は現在も改善されていない。早期発見で治療を進めたいが、進行した方が多い。那覇市の取り組みを広げてほしいとのことだった。

- ・沖縄県離島患者等通院費支援事業

浅野委員より、宮古病院では患者さんが診察や相談のために沖縄本島に行く必要があると、地理的・金銭的なハードルが高く、躊躇される方が多いとの報告があった。これを受けて糸数委員より「沖縄県離島患者等通院費支援事業」について説明があり、県と市町村が負担する予算についても再確認がなされた。有賀委員より、通院費支援事業を知らない患者さんがとても多いという患者会のコメントが紹介された。増田委員からは、医師の説明不足と患者さんが申請していないことに帰結すると思われるので、離島

の先生方からきちんとして説明していただくとよいのではないかとのことだった。

3. 予防について

糸数委員より、県が行っている普及啓発活動について報告があった。沖縄県では、リーフレットやトイレトペーパー・ボックスティッシュなどを用いて、禁煙習慣や歯と口の健康習慣の普及啓発を行っており、県立図書館にブースを設けて訪れる人々に啓発活動を行っている。また、医師会のイベントや県の広報誌にも記事を掲載しているが、これらの普及啓発活動をどのように強化するかについては、さらなる検討が必要と考えているとのことだった。

4. 医療について

時間の都合上、次回に持ち越しとなった。

5. 次回の開催日程について

事務局から日程調整をさせていただきます。

6. その他

特になし。